令和7年度第1回二宮町防災会議

二宮町の個別避難計画の進捗

令和7年９月29日

本日の流れ

①個別避難計画の作成推進体制

②現在の進捗と今後

③台風10号の対応から見えた成果

①個別避難計画の作成推進体制

令和４年度から防災安全課を中心に役場関係部署（福祉、高齢、消防、地域包括支援センター）と神奈川県（平塚保健福祉事務所、地域福祉課、危機管理防災課）等との検討会を定期的に開催。

①個別避難計画の作成推進体制

①どのような組織で

・防災安全課を中心に、対象者に関係する組織（福祉、高齢部局等）と連携

②誰に対して

・ハザードエリアに居住する避難行動要支援者

③どのような手順で作成していくか

・対象者と家族、地区、町関係組織と作成会議

①個別避難計画の作成推進体制

二宮町の作成の優先順位

エリアもしくは状態	対象者（概算）
①心身状態難病患者	1名
②土砂災害特別警戒区域（レッド）	55名
③土砂災害警戒区域（イエロー）	123名
④洪水・津波浸水想定区域	74名
⑤その他	―

※令和5年度末概算対象者

②現在の進捗と今後

個別避難計画第1号（令和5年度作成）

計画作成検討会（対象者宅で関係者）
（優先度①⇒心身状態難病患者の方）

①地区長
②民生委員
③ケアマネ
④訪問看護
⑤平塚保健
⑥二宮町
⑦神奈川県

対象者の課題

内部ﾊﾞｯﾃﾘｰ

外部ﾊﾞｯﾃﾘｰ

電源確保の研修会（平保）

②現在の進捗と今後

個別避難計画対象者の訓練実施（R6.7.3）

停電設定に伴い人工呼吸器のバッテリーの残量確認

地域関係者

地域の協力を求めると共に地区は
町災害対策本部へ電源確保の要請

②現在の進捗と今後

個別避難計画第２号（令和5年度作成）

〇対象者の避難所
県立高校体育館　２階階段ありﾄｲﾚ１階

・通常の避難所は難しいため、福祉避難所である保健センターへの避難とした。
・対象者は移動には車が欠かせないため、支援者の町内在住　娘さん同乗にて避難実施

②現在の進捗と今後

個別避難計画対象者の訓練実施（R6.1.22）

避難所となる多目的室や
トイレなどを確認

対象者や支援者、地域の方、町関係者など
で訓練の振り返りや個別避難計画の確認

②現在の進捗と今後

令和6年度末の進捗

ﾊｻﾞｰﾄﾞｴﾘｱ 世帯状況	レッド	イエロー	洪水	津波	合計
対象世帯 （作成数）	７９人 （５人）	８９人	３６人 （１人）	１６人	２２０人

・令和6年度にシステムを導入し、デジタルで対象世帯を抽出。（R7年1月1日現在）
・令和6年度中にレッドゾーンの全世帯を訪問し、意向を確認。（2名の作成意向有）
・町としては優先①、優先②のうち、令和７年度中に必要な方の作成は完了させ、第1次策定は完了とする。
・優先③はイエローではなく、洪水浸水想定区域に変更し、第2次策定期間（令和９年度中）までに作成する。

②現在の進捗と今後

レッドゾーン対象者へのアプローチの状況（公社20件→百合が丘保全協会との連携）

②現在の進捗と今後

地区長や民生委員、自主防災組織のほか、ケアマネや福祉関係事業所へ個別避難計画の作成意義や町の取り組み（経過）を説明している。

③台風10号の対応から見えた成果

最強クラスに発達した台風10号は、鹿児島県に上陸し大雨をもたらしましたが、その本体から遠く離れた神奈川県でも、暖かく湿った空気の流入などで記録的な大雨となりました。

二宮町の雨量の状況　（小田原市総雨量537.0㎜）

令和6年8月29日（木）1日積算雨量　149.0㎜

8月30日（金）1日積算雨量　235.0㎜　合計384㎜

4：00～5：00→38㎜

5：00～6：00→28㎜

6：00～7：00→63㎜

③台風10号の対応から見えた成果

平常時の様子

8月30日の様子

③台風10号の対応から見えた成果

一色小学校付近

富士見が丘3丁目

③台風10号の対応から見えた成果

○避難者総数　最大18世帯37人

（土砂災害警戒エリア、葛川（元町南新道浸水エリア））

①富士見が丘3丁目防災ｺﾐｾﾝ　②元町北防災ｺﾐｾﾝ

③中里防災ｺﾐｾﾝ　④町民センター　（⑤自主避難所）下町老人憩の家

個別避難計画作成者が最初の避難者

③台風10号の対応から見えた成果

町職員救護班によるパーテーションやリクライニングベッドの設営訓練の様子

まとめ

二宮町の個別避難計画の作成方法は、

・1件あたりにかかる自治体負担が大きい

・早期に、幅広く作成することが困難

しかし、

・真に必要な人を地区とともに選定し

・徐々に理解と支援を受けられるまでに浸透した

町として、地区の理解を得ながら、実効性の高い計画策定と訓練を通じて、引き続き「逃げ遅れゼロ」を目指す。